国際協同組合年
協同組合はよりよい世界を築きます

県生協連・会員生協　役員研修交流会

2025年、国際協同組合年、被爆・終戦80年に向け意義と課題を学習

平田会長

宮原課長

新井さん

加百さん

1月7日（火）オルガホールにて、県生協連・会員生協役員研修交流会が開催され、68名（会場参加46名、オンライン22名）の役職員が参加しました。

県生協連平田昌三会長より、今年は様々な「区切り」の年になるが、大切なことはしっかりと継承していこうと挨拶があり、岡山県県民生活部くらし安全安心課の宮原雅史課長からはすべての県民が笑って過ごせるような岡山県づくりに一緒に取り組みましょう、とご挨拶をいただきました。

続いて、新井ちとせさん（日本生協連副会長、ICAアジア太平洋理事・女性委員会委員長）、加百（かど）智津子さん（岡山被爆２世・３世の会世話人代表）を講師にお招きし、２部構成で学習講演が行われました。2025年は国連が定めた「国際協同組合年」であり、被爆・終戦80年の「区切り」を迎え、協同組合の意義や被爆体験の継承、核兵器廃絶への動きが問われる年であり、その取り組み強化へのキックオフとしての位置づけで取り組まれました。

第１部は「2025国際協同組合年にあたって～日本生協連の国際活動に関わって～」と題して新井さんより、国連が今年を「国際協同組合年」に決めた背景として、協同組合が行う取り組みの評価とSDGｓ達成に向けた重要セクターとしての期待があることが述べられ、これからの世界と日本での取り組み予定などを紹介しました。また、新井さんが関わってきた国際協同組合同盟（ICA）のアジア太平洋地域の事務所でのエピソードなど交え、世界の協同組合の動きや女性活躍へ向けた取り組みなどを紹介し協同組合の可能性をアピールしました。

第２部は「被爆80年。核兵器のない平和な世界を求めて～「母さんのヒロシマ」を語り継ぐ～」と題して加百さんより、今日の平和の危機とその中での日本被団協のノーベル平和賞受賞の反響を今後の平和活動へつなげたいこと、おかやまコープでの平和の活動の歩みを紹介し、組合員の社会を見る窓口としての生協への期待を述べました。そして、原爆の恐ろしさと加百さんの母親の被爆、その後「何十年たっても“被爆者”を追いかけてくる」苦難の経験を語り、ご自身の被爆２世としての活動と想い、一人一人が「知る」、「知らせる」、「考える」、「行動する」ことを被爆80年の今年、より広げていこうと提起しました。